

2018年2月期 第1四半期 決算補足資料

イオンデイライト株式会社 

2017年7月5日

業績概要

- 国内外でサービスの提供先を拡大し、**増収増益、過去最高益を更新**

売上高755億円 前年同期比100.1%、営業利益40億円 前年同期比104.4%

主な取り組み

- IFM（※）のアジア展開に向けて、上海市に「永旺永楽(上海)企業管理有限公司」を開業
- 国内では、大型商業施設、ホテル、研究所、医療関連施設等へサービスの提供を開始
- 全国展開する小売店舗へのデジタルサイネージや次世代コピー機の設置、各種工事の受託により、中小型施設へのサービス提供を拡大
- 海外では進出各国（中国、マレーシア、ベトナム）で堅調に事業を拡大
- 中国湖北省武漢市では、食堂運営へのニーズが高い地域特性を踏まえ、ケータリングサービスを提供する「武漢小竹酒店管理服务有限公司」を設立

※IFM（インテグレートッド・ファシリティマネジメント）…戦略的パートナーとしてファシリティの管理運営に関する最適なサービスを提供し顧客の成長に貢献すること

大型施設の受託拡大に加え、国内子会社により中小型施設へのサービス提供を拡大。
海外では各国で堅調に事業を拡大し増収増益、過去最高益を更新。

単位：億円

| | 2018年2月期 第1四半期 | | | 前年同期 | |
|--------------------------|----------------|---------|---------|---------|---------|
| | 金額 | 売上比 (%) | 前年比 (%) | 金額 (実績) | 売上比 (%) |
| 売上高 | 755 | 100.0 | 100.1 | 754 | 100.0 |
| 営業利益 | 40 | 5.4 | 104.4 | 39 | 5.2 |
| 経常利益 | 41 | 5.5 | 105.3 | 39 | 5.2 |
| 親会社株主に 帰属する 四半期純利益 | 27 | 3.7 | 103.4 | 26 | 3.6 |

5事業で前年比増。建設施工では前年実施の看板入替工事の反動減などがあったものの工事受託は回復傾向。資材関連では2Qよりデリカ製造工場における包装資材を受託

単位：億円

| | 2018年2月期 第1四半期 | | | 前年同期 | |
|---------|----------------|---------|---------|------|---------|
| | 売上高 | 構成比 (%) | 前年比 (%) | 売上高 | 構成比 (%) |
| 設備管理事業 | 131 | 17.4 | 103.5 | 127 | 16.9 |
| 清掃事業 | 137 | 18.2 | 103.2 | 133 | 17.7 |
| 警備事業 | 110 | 14.6 | 106.9 | 102 | 13.6 |
| 建設施工事業 | 117 | 15.5 | 86.7 | 135 | 17.9 |
| 資材関連事業 | 126 | 16.7 | 96.9 | 130 | 17.3 |
| 自動販売機事業 | 80 | 10.6 | 102.6 | 78 | 10.3 |
| サポート事業 | 52 | 6.9 | 109.5 | 47 | 6.3 |

※ 清掃、警備、建設施工、サポートの各セグメント間で一部組み換えを実施

(廃棄物手数料 サポート ⇒ 清掃、安全カメラ設置 建設施工 ⇒ 警備)

設備管理事業

新規受託に加え、2016年6月施行の建設基準法改正に伴う防火設備定期点検の受注を拡大。日中合作にて次世代型施設管理モデル構築を進める

清掃事業

衛生清掃により病院施設の受託を拡大。施設毎の特性を踏まえた清掃品質基準を構築。完全自動型清掃ロボットの実用化に向けた検証を進める

警備事業

新規開業施設の常駐警備、臨時警備の受託拡大。省人化を目的に出入管理や巡回警備のシステム化を進める

建設施工事業

施設における各種工事の受託拡大に向けて供給体制を強化。商業施設のテナント入替に伴うリニューアル工事の一括受託に向けた提案を積極化

資材関連事業

新規顧客開拓に加え、既存顧客の需要取り込みに努める。仕入コストや物流コストの削減により、収益性改善に向けた取り組みを進める

自動販売機事業

設置拡大に加え、デジタルサイネージ型自販機の機能を充実化。次世代型電子マネーリーダーライタの開発など新たな付加価値創造に注力

サポート事業

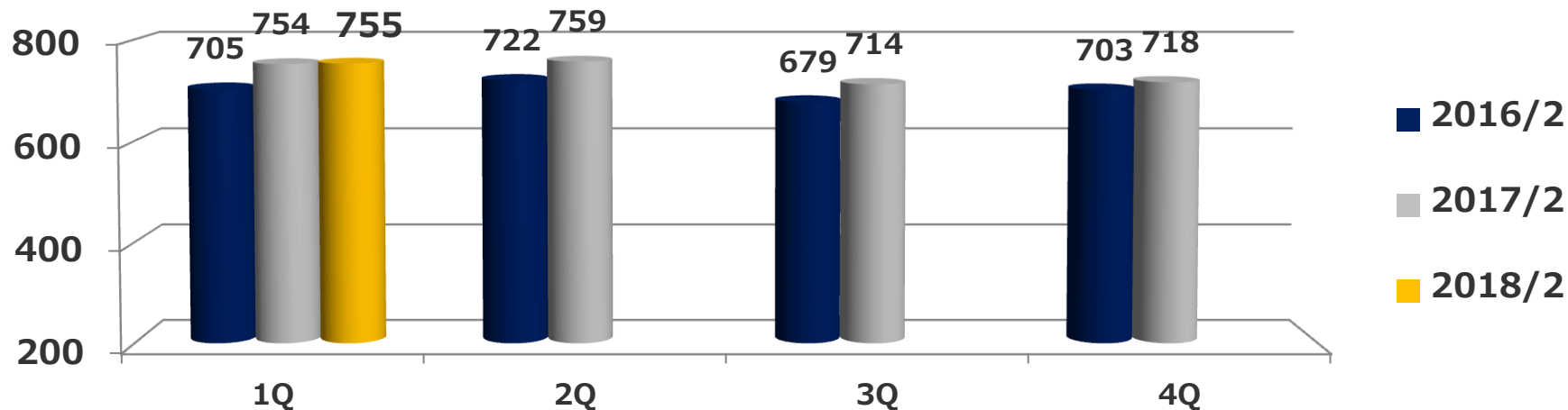
カジタク、イオンコンパスなど連結子会社の成長が貢献

| 資産の部 (単位：億円) | 17/2月 期 | 18/2月期 第1四半期 | 増減 | 負債・純資産の部 (単位：億円) | 17/2月 期 | 18/2月期 第1四半期 | 増減 |
|-----------------|------------|-----------------|----|---------------------|------------|-----------------|----|
| 流動資産 | 1,124 | 1,144 | 20 | 流動負債 | 440 | 448 | 7 |
| 有形固定資産 | 90 | 91 | 0 | 固定負債 | 33 | 29 | ▲4 |
| 無形固定資産 | 90 | 89 | ▲1 | 負債合計 | 474 | 477 | 3 |
| 投資等 | 89 | 87 | ▲2 | 株主資本 | 885 | 899 | 13 |
| 固定資産 | 270 | 267 | ▲3 | 純資産合計 | 920 | 934 | 13 |
| 資産合計 | 1,395 | 1,412 | 17 | 負債・純資産合計 | 1,395 | 1,412 | 17 |

過去3カ年の四半期推移：売上高

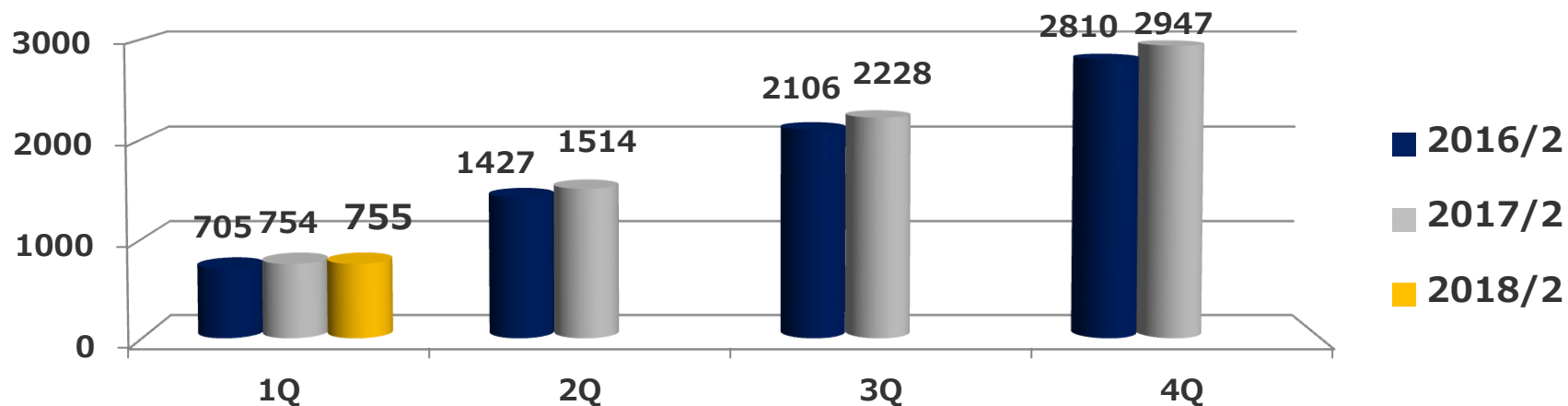
四半期 期間売上高推移

(単位：億円)



四半期 累計売上高推移

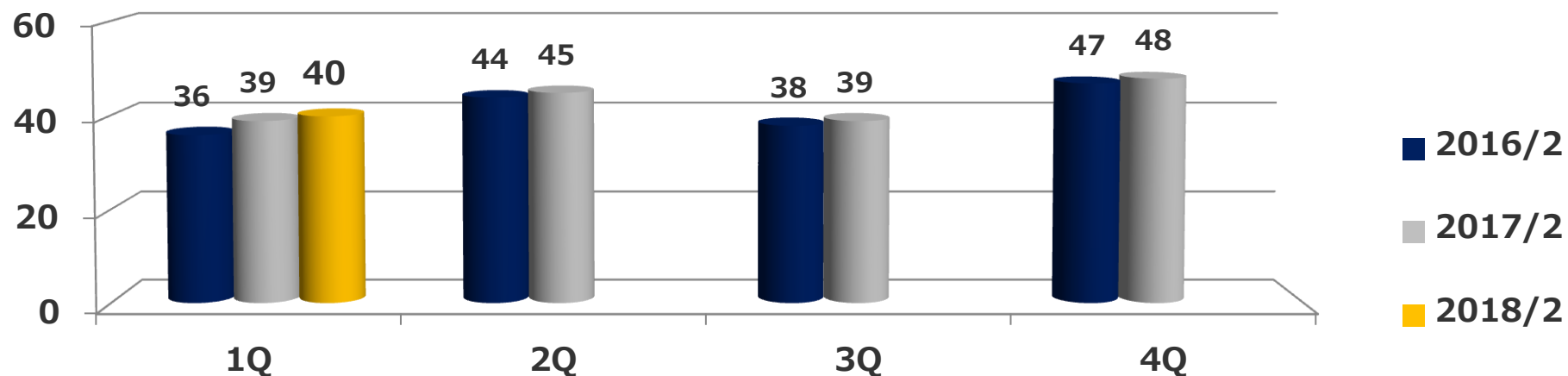
(単位：億円)



過去3ヵ年の四半期推移：営業利益

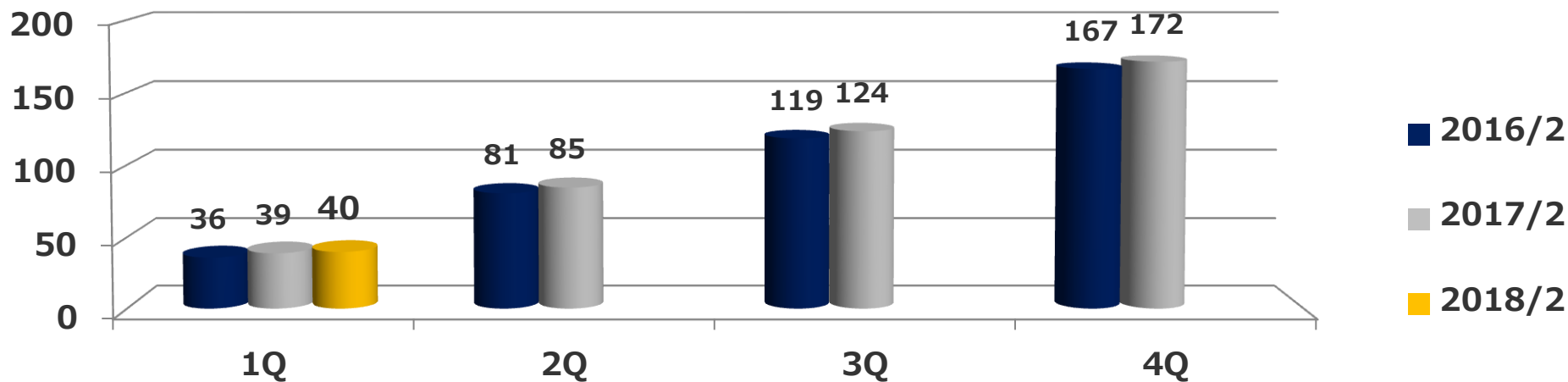
四半期 期間営業利益推移

(単位：億円)



(単位：億円)

四半期 累計営業利益推移



(参考) 2018年2月期の取り組み

- ① I F Mモデルの早期確立
- ② エリア別トツプライン拡大策
- ③ テクノロジーの活用
- ④ 改装工事受託の拡大
- ⑤ 「働き方改革」組織力の強化

日中で I F Mモデルを早期確立・展開



営業体制の強化

上海に I F M営業拠点を開設

I F M業務の I T化

作業工程の実測、
レポーティング・システム
の開発・導入を推し進める

② エリア別トップライン拡大策

国内

- ・ 業態別（病院、ホテル、オフィスなど）営業体制の強化
- ・ 工事（商業施設の活性化、オフィスレイアウトなど）受託の拡大

中国

- ・ 重点5大マーケットでの受託拡大
 - ・ AD江蘇：再開発エリアでのFM業務の集中的な受託
 - ・ 武漢小竹：ニーズの高いケータリング事業の展開
- ※ 重点攻略5大マーケット
- ① 中高級レジデンス
 - ② 中高級ショッピングセンター
 - ③ 養老院、病院、介護施設
 - ④ ハイエンド工場
 - ⑤ 交通インフラ施設

アセアン

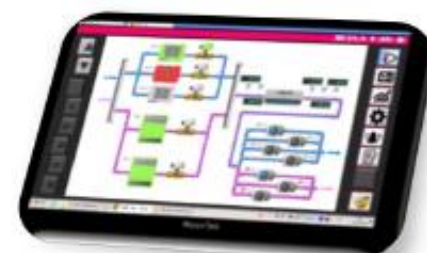
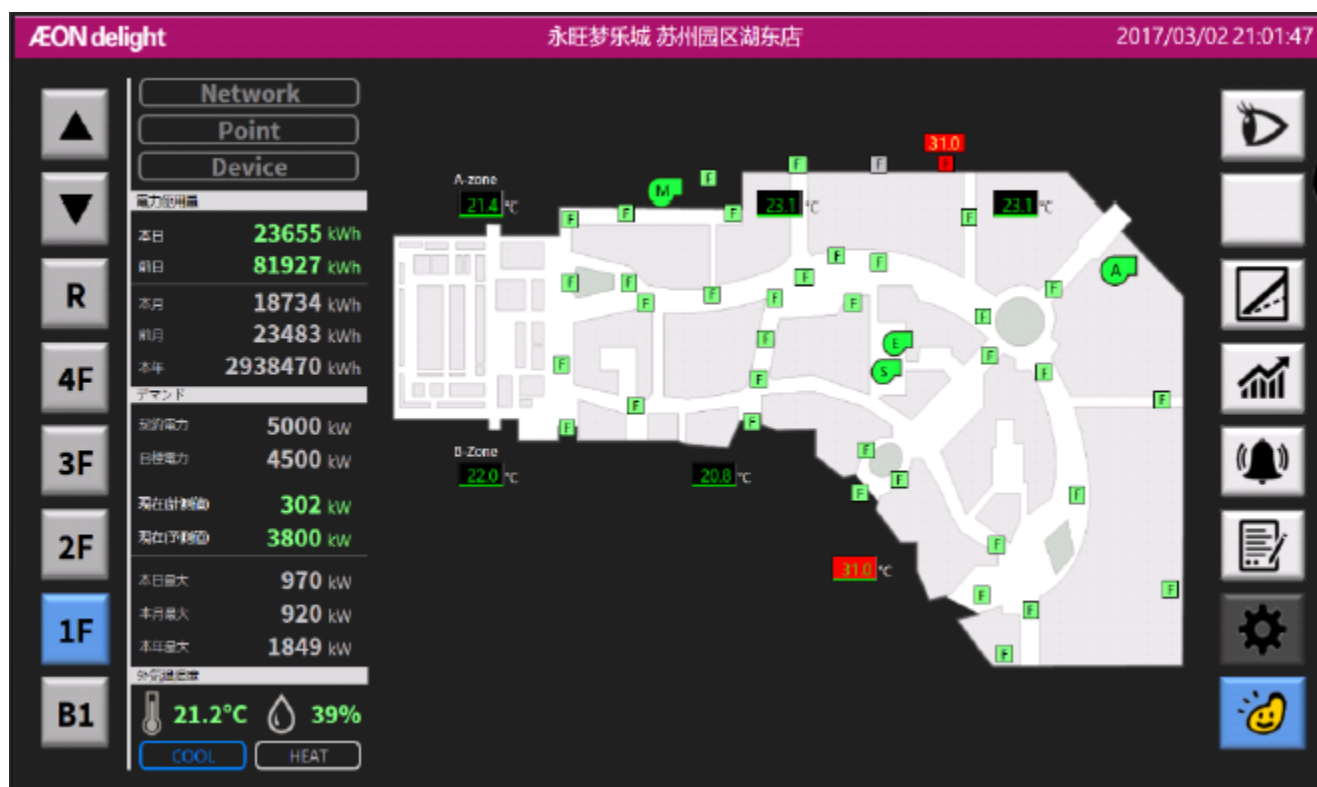
- ・ マレーシア：マーケットの大きな設備管理事業を本格スタート
- ・ ベトナム：設備管理、清掃、警備の品質向上、総合管理受託の拡大

施設のインテリジェント化

【フェーズ1】

オープンネットワーク化による省エネ自動制御化

イオンモール蘇州園區に導入



デザイン・設計からアフターメンテナンスまでトータルサポート

退店工事

01

仮囲い
工事

02

原状回復
工事
区画分割

03

仮囲い工事・
原状回復に伴う
周辺対応

2016年度実績

活性化工事 **210件**

仮囲い・原状回復・リニューアル

2,843件

入店工事

04

事前調査

05

開発計画

06

企画
デザイン

07

設計・施工
区画分割
原状回復工事

08

内装監理

09

施工/監理

10

引き渡し

11

アフター
メンテナンス

12

設備管理
清掃
警備



⑤ 「働き方改革」 組織力の強化



社内SNSにより提案力コンテストを仕組み化「**FM-1 グランプリ**」

各現場の好事例を投稿・共有・評価

2016年度は

総計 **1,186** 件のアイデアが集結



■ 取り組み発表会



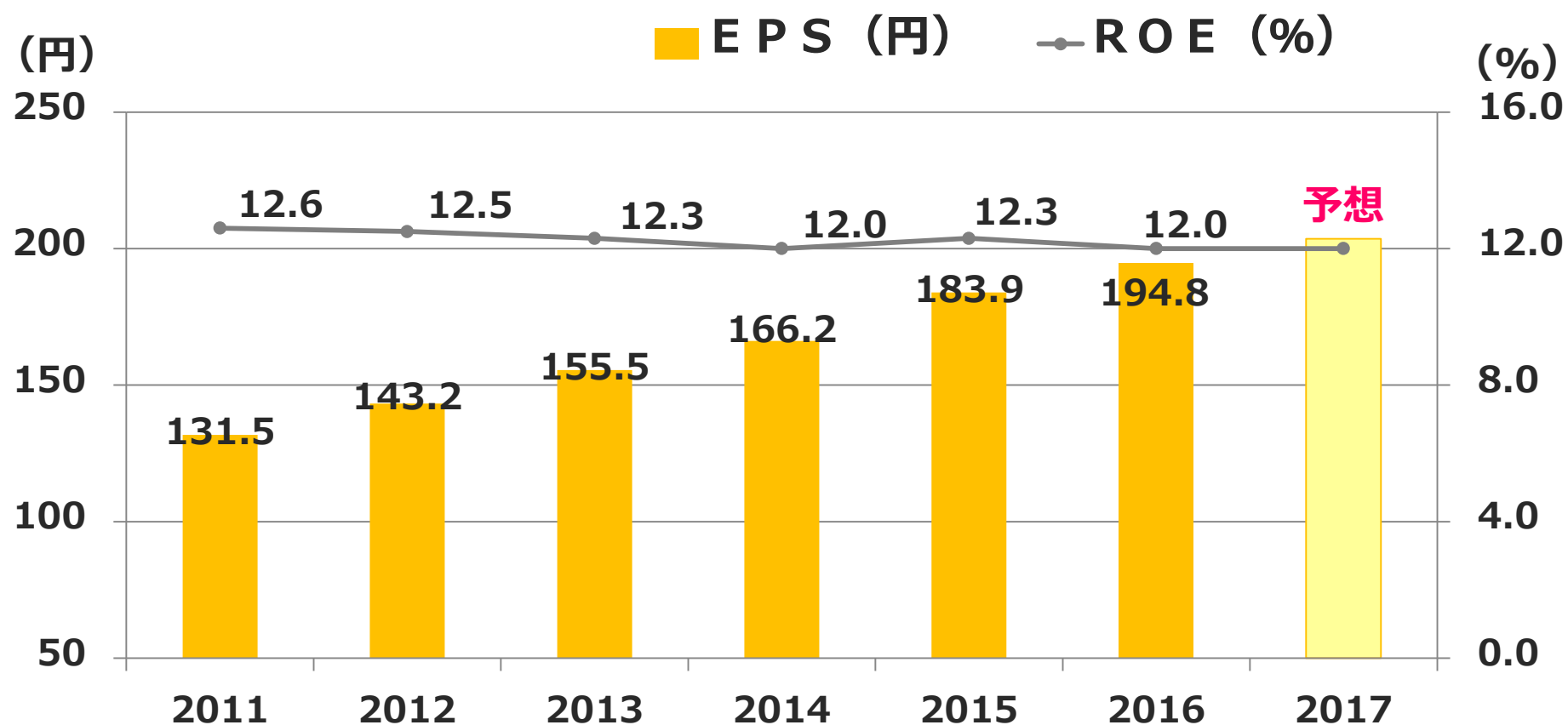
清掃現場におけるクリーンクルー主体の改善活動「**働きやすさ追求活動**」

2年目を迎え、国内からアジアへエリアを拡大

| 連結要約損益計算書 (単位：億円、%) | 18/2月期 | | | 17/2月期 | |
|------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 予想 | 構成比 | 前年比 | 実績 | 構成比 |
| 売上高 | 3,050 | 100.0% | 103.5% | 2,947 | 100.0% |
| 営業利益 | 180 | 5.9% | 104.3% | 172 | 5.9% |
| 経常利益 | 180 | 5.9% | 103.6% | 173 | 5.9% |
| 親会社株主に帰属 する当期純利益 | 107 | 3.5% | 104.5% | 102 | 3.5% |

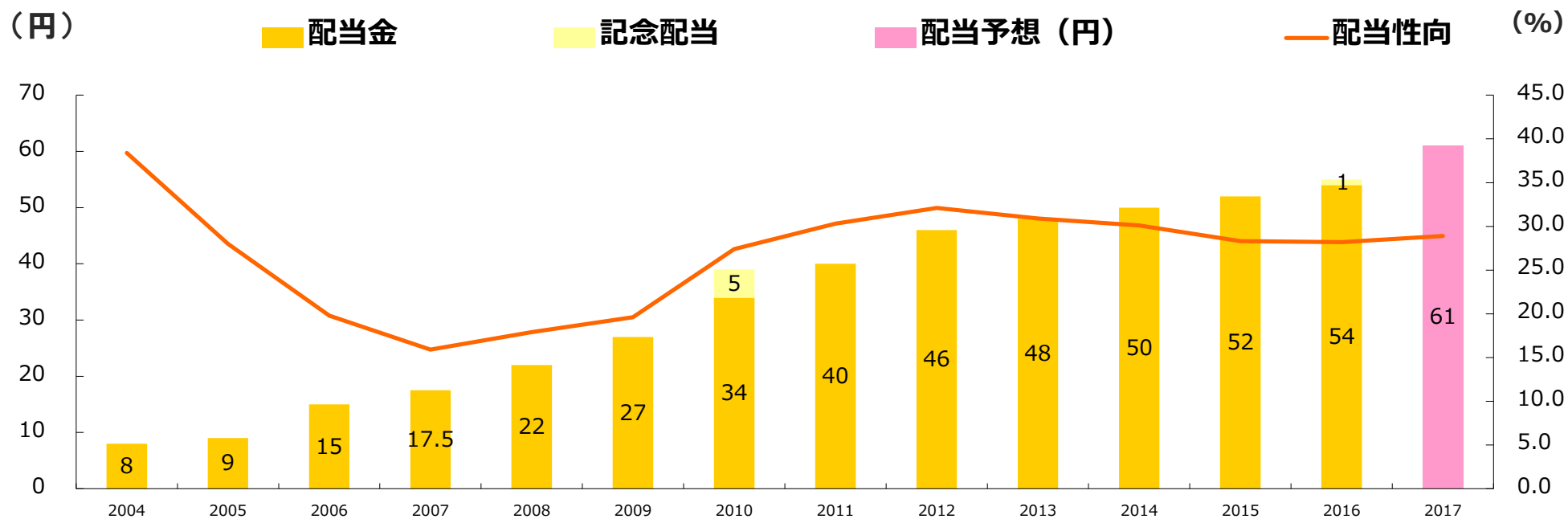
連結配当性向：30%を基準とする

資本効率：ROE 12%水準を意識



2005年度以降、13期連続の増配を目指します

| 年度 | 2004 | 2005 | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 |
|----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 配当額 (円) | 8.0 | 9.0 | 15.0 | 17.5 | 22.0 | 27.0 | 39.0 | 40.0 | 46.0 | 48.0 | 50.0 | 52.0 | 55.0 | 61.0 |
| 配当性向 (%) | 38.4 | 28.0 | 19.8 | 15.9 | 17.9 | 19.6 | 27.4 | 30.3 | 32.1 | 30.9 | 30.1 | 28.3 | 28.2 | 30.0 |



- この資料には、イオンディライトの将来についての計画や戦略、業績に関する予想及び見通しの記述が含まれています。
 - ◇ これらの記述は、過去の事実だけではなく、当社が現時点で把握可能な情報から判断した想定にもとづく見込みです。そのため、実際の業績は見込みとは異なる可能性がありますので、ご承知置きください。
- 資料中、特に注記がない場合を除き下記の方法により記載しております。
 - ◇ 全て連結を対象として記載
 - ◇ 記載金額は億円未満を切り捨て
 - ◇ 比率は小数点第2位を四捨五入

イオンディライト株式会社
(証券コード：9787)

IR担当連絡先 部署名：グループ戦略本部

責任者名：京本 明志

TEL 043-351-2563

又は、ホームページよりお問い合わせください。

<http://www.aeondelight.co.jp>

本日、発表した内容につきましては発表日当日（2017年7月5日）に入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後の様々な要因により業績予測につきましては、変更する場合がございます。